馬考

之五六

和書門
類
九二九七號
一〇三函
一〇架
六冊

内閣文庫
和書
類 九二九七 號
冊 六
函 一七五
架 七

内閣文庫
番號 和 9297
冊數 6 (4)
函號 175 106

国立公文書館
National Archives of Japan

教部省文庫印

但馬考卷之五

出石城 臣櫻良翰輯

内一〇二八四號

帝国図書館蔵書之印

帝国図書館蔵書之印

地理第三

出石郡

風土記曰古老傳ヘ云往昔(ソノカミ)天下(アメカシタ)ヲ治ムル御神大穴持(オホアナモチ)命(ノミコト)此郡ニ到リタマヒテ地上ニ光アル事數夜ナリ其光ノ尋テ地ヲ鑿ルニ數仞ニシテ白石ヲ得ル故ニ此ニ名ツク其石ハ今ノ一宮ノ御形コレナリ此郡民家豊饒ニメ良材佳菓柴薪布帛等ヲ出ス

倭名類聚鈔ニ載ル郷七合

小坂 安美 出石 室野 埴野(ハニノ) 高橋 資母(シモ)

以上七郷ニ村數七十八田地高二萬四千七百三
十五石九斗七升五合
神名帳曰出石郡式三座大允座小十四座
伊豆志坐神社八座 并名神大
御出石神社名神大　桐野神社　諸杉神社
須流神社　佐々伎神社　日出神社
須義神社　小野神社　手谷神社
中島神社　大生部兵主神社　阿年加神社
比遲神社　石部神社　小坂神社
舊来大成經曰分野　神社　橿原大皇ノ時磐裂
嶺裂大神分野持ニ仍テ鎮坐ス

此神社坐ス処シラス大成経ニ出石神社ト
並ヘ出セル立ヘコヽニ記ス
按ニ風土記ニ郷拾所里參所神戸四驛壹トヤ
リ然ル郷ト里ト差別ナシ且延喜式ヲ考ルニ
此郡ニ驛ナシ又別ニ下郡ト云モノヲ出シテ此郡地旱
シテ下坂ノコトシ故ニ下郡ト云ト其屬スル村ヲ見
レハ長沙立石ノ類今俗ニ下郷ト称スルモノナリ
意ニ古ノ風土記亡テヨリ新ニ作リ出セル人俗語ヲ
傳ヘ聞テカク記セルナラン但馬ハ八郡ノ外ニ下郡
トヱモノアル丁古来ノ昏ニ證拠ナシ
文明年中大須賀時基カ郡境ノ記ニ曰出石郡城崎郡

香住(カスミ)嶺ハ休石アサキ山限沖ハシラハシ水ハ流レ次第
朝寐カ森カ限伏ハ塩屋ノ竈ノタン八町カ畷(ナハテ)佐野ノ
低松(サカリ)大門ノ縄手カ限リ

小坂郷

弘安太田文曰小坂郷八拾五町百六拾歩　地頭周防三郎
村數九
厅間　三木　大谷　九谷　中谷　森井　尾崎
鳥居　長沙
長沙　風土記曰郡家西南一里三十歩公穀六十九
假粟三十一九
長沙山　風土記曰此山諸木寡(スクナク)シ巨岩石ナシ只沙(スナ)ノミ故
ニ名ク抓捏多シ

安美(アミ)郷

太田文曰安美郷七拾六町七反六拾歩　地頭大江氏
出石三郎信政嫡女長右衛門四郎長連妻女
此内名田ノ主多シ別ニ挙ルニ及ハサルモノハ略之今
八宍見ト云安ト宍ト字似テ美ト見ト音通スル
ユヘ誤レリ弘安ノ比又分テ大内庄トス其土地ノ境
定カナラスタヘ其文ラコヽニ載ス
村數十一
安良　上鉢山　下鉢山　香住　立石　森尾
三宅　市場　真野　倉見　長谷　八

法金剛院領大内庄六拾町二反百八拾歩　領家
真言院僧正預所佐渡入道禅海　下司香住
孫太郎入道浄阿御家人　公文金覚注文定
但シ下司香住孫太郎入道浄阿注文ノ如キハ定田九拾
町其外新田二拾町又下司閑發之奥野村　新田三
拾町為預所押領ス惣田数百四拾町欠
安良　太田文曰八幡宮領安良別宮二十八町八反三
百三拾歩　下司安良太良景　同次郎政景御家
人　度々雖ル解不出ニ注文ノ之間任ニ古帳ニ註進ス之ヲ
コレ今ノ八幡宮也
鉢山村　風土記曰喬麥　稈黍脩竹等ヲ出ス公穀百三
十九假栗四十九九
鉢山　風土記曰此山絶頂窪ニメ鉢ノ形ノ如シ故ニ之ニ名
ツク孤捏異草多シ
鉢山寺　太田文曰熊野本宮領鉢山寺六町八反二百四
十歩　国別常南左太郎高春御家人
此寺今ハ亡ヒタリ
香住　風土記曰多ク木綿布等ヲ出ス公穀百五十九假
栗六十九
香住川　風土記曰源截石山ニ出タク佐氣麻須年魚
以下脱簡五丁計
按ニ比川ノ源ハ奥野ヨリ實ニ丹後境ニ

立石　風土記曰多々良材奇石ヲ出ス公穀百三十九
假粟四十九
又曰神アリ天王社ト号ス祭トコロノ神ヲシラス
立石山　風土記曰此山至峻ニメ諸木茂シ松樟タメシ又岩
石多シ其岩截尖カ如シ故ニコレニ名ツク
按ニ此地ニ石アリ其形方ニメ大サ尺ニ餘レリ高モコ
レニ称ヘリタヽ土中ニ入ル丁幾丈ナル丁ヲ知ス深ク
コレヲ掘ル終ニ其極リヲ見ス父老傳ヘイフコレ
立石ハ此村モコレニ因テ名ツケシナリト然ハ風土記
ノ説ト異ナリ何レカ是ナルヲシラス
三宅　コレモ上古屯倉ヲ置レシ跡ナリ其説養父郡
テ出ス　天日槍ノ曽孫ヲ田道間守ト云此地ニ居タリ
シヨリ子孫三宅氏ト称ス延喜式ニ中島神社アリ
コヽニ坐スコレ田道間守ヲ寮レルナリト云傳フ
出石郷
太田文曰出石郷三拾三町九反四十四歩　地頭出石王
帛信政跡　依白川三位家越訴地頭被召上子息
孫三帛政光諸死ヲ
村數十四分テ三トス
奥小野　口小野　袴座　田立
福井　島　伊豆
右小野庄トス

宮内　坪井

右神部郷ト云

鍛治屋村　弘原下村　同中村　同上村

奥山

右弘原庄ト云

神戸郷三拾四町七反百十六歩　地頭太田次郎左衛門尉政道跡

高野平等院領　弘原庄五十町領家中納言法印能誉地頭

太田左衛門太郎　政頼

出島　昔天日槍ノ新羅ヨリ来リ北國ニ住処シ定メ玉ヒ

シ時出島人大耳ノ女麻多島シ娶ルト日本紀ニ

見エ又真女ヲ伊豆志哀登賣トイフヿモ故

事記ニアリコレ今ノ伊豆トイヒ島トイフニタ村ノ地

ニテ古ヘ日槍ノ住玉ヒシ伊豆志ナリ　彼日槍ノ新羅日

リ持来リタマフ宝物ノ中ノ出石刀子其名ノヨリカナ

ヘルユヘ後ニ出石ト改メシト一宮ノ縁起ニイヘルサモア

リヌヘキヿシ山名氏ノ小盗山ニ居タリシヨリ彼地ニ

人民多ク住ケレハ出石ト云名モ自ラ彼コノ事ニナリ

テコヽハタヽ田夫ノ住家トナレリ天正ノ初又城ヲ有子山ニ

移サレシカハ小盗モアレハテヽ今ノ出石ノミ盛ニナリヌ

何レモ其名ハ用ヒナカラ其地ハ三度カハレリサレトミナ

出石一郷ノ中ノヿナレハ古来出石ノ里ト云コトモスヘ

テ此邊ノ通名ニテ強テハサノミ分ツヘキニモアラス

風土記曰郡家正東一里十歩鮮魚諸鳥繁多諸木
又多シ公穀百五十九假栗五十二九
歌書ニハ五師里トカケリコレニ因テ出石宮ヲ五師宮
トヲモノナリトヲモ謬ル歌書ニ又伊津師九アリ
歌枕名寄
五師里　讀人シラス
但馬ナルイツシノ里ノイツシカモ戀シキ人ヲ見テ慰サン
伊豆ト島ノ間ニ福井ト云処アリ昔三島ノ権現ヲ
勧請シテ村ノ名ヲモ直ニ権現トイヘリ近キ代ニ改テ
今ノ名トセラル此里ノ東三島山ト云処モアリコレニ
ヨリ伊豆島ノ名ハ権現ヨリヲコリシト云説モア

レトソレハ伊豆ト云名ニヨリ三島権現ヲ思ヒヨソヘテ
勧請シ終ニ山ヲモカク呼シナリ
水上（ムナカミ）　風土記曰奥甲斐多ニシテ民用足レリ　公穀百二
十九假栗六十九
伊豆志河　故事記曰伊豆志ノ神ノ女名ハ伊豆志袁登
賣ヲ神イニスナリ故ニハ十神コノ伊豆志袁登賣ヲ
得ントヲ欲スレモ皆婚フヲ得スコヽニ二リノ神アリ兄
ハ秋山之下氷壮夫（シタヒヲトコ）ト名ク第ハ春山之霞壮夫（カスミヲトコ）ト名故
ニ其兄其弟ニイフ吾伊豆志袁登賣ヲ乞トイヘ婚フ
ヲエス汝コノ嬢子（ヲトメ）ヲ得テヒカ答テ曰得ヤスシ其兄ノ曰若汝
コノ嬢子ヲ得ルヿアラハ上下ノ衣服ヲ避ケ身ノ高ヲ量（カリ）

テ甕ノ酒ノ醸シニタ山河ノ物悉備設宇禮豆玖シ
セニト云其弟兄ノ言ノコトク具ニ其母ニ白ス即
其母布遅葛ヲ取テ一宿ノ間ニ衣褌及襪沓ヲ織
縫ニタ弓矢ヲ作リ其衣褌等ヲ服セシメ其弓矢ヲ取
シメ其嬢子之家ニ遣スレハ其衣服及弓矢悉ニ藤ノ花
トナル是ニ於テ其春山之霞壯夫其弓矢ヲ以テ嬢子
ノ厠ニ繫ク伊豆志哀登賣其花ヲ異シト思ヒ將
来ル時其嬢子ノ後ニ立テ其屋ニイリ即婚シツ故ニ
一リノ子ヲ生ス命テ其兄ニ白シテ曰吾ハ伊豆志袁登
賣ヲ得タリ是ニ於テ其兄弟ノ婚シイヲ慷慨テ其
宇礼豆玖ノ物ヲ償ハス企テ愁テ其母ニ白ス時御祖答ニ曰

我御世ノ事ヨクコソ神習フ又宇都志岐青人草習フ
カ其物ヲ償ハスト其兄子ヲ恨ミ乃チ其伊豆志河ノ河
島ノ一節竹ヲ取テ八日ノ荒籠ヲ作リ其河ノ石ヲ取
テ塩ニ合セテ其竹ノ葉ニ畏テ詛言シム此竹ノ葉ノ青キ
カ如ク此竹ノ葉ノ萎ムカ如クシテ青ク萎ミ又此塩ノ盈乾
カコトクニシテ盈乾ヨ又此石ノ沈ムカ如クニメ沈ミ卧セカク
ノ如ク詛ハシメ煙ノ上ニ置ク是ヲ以テ其兄八年ノ間乾萎
病枯又故ニ其兄患泣テ其御祖ニコヘハ即其詛戸ヲ返
サシム是ニ於テ其身本ノ如ク以テ安ク平ケシ

伊豆志神社　延喜式曰伊豆志坐神社八座并ニ名神大

日本書紀曰畫仁天皇三年春三月新羅王子天日槍

来歸爲将来物ハ羽大王一筒足高王一筒鵜鹿々
赤石王一筒出石小刀一口出石桙一枝日鏡一面熊ノ
神籬一具并テ七物アリ則但馬国ニ藏テ常ニ神ノ
物トスルナリ一ニ云初メ天日槍艇ニ乘テ播ノ国ニ泊リ
テ完粟邑ニアリ時ニ天皇三輪君カ祖大友主ト倭直
ノ祖長尾市トシ播ノ国ニ遣ハシテ天日槍ニ問シテ
曰汝ハ誰人ソ且何ノ国ノ人ソ天日槍對ヘテ曰僕ハ
新羅国主ノ子ナリ然ルニ日本国ニ聖ノ皇ニスト聞
テ己カ国シヲテ弟知古ニ授テ化歸リ仍テ貢献物
ハ葉細珠足高珠鵜鹿赤石珠出石刀子出石槍日鏡
熊ノ神籬膽挾浅大刀并ニ八物アリ仍テ天日槍ニ詔
シテ曰播ノ国出浅邑淡路島ノ完粟邑コノ二邑ハ汝
任意ニ居レト時ニ天日槍啓シテ曰臣住ン處ハモシ天
恩ヲ垂テ臣カ情ニ願ハシキ地ヲ聽シタマヘハ臣親ラ諸
國ヲ歴視テ則臣カ心ニ合ヘルヲ給ハラントヲモフ乃コレヲ
聽シタマフ是ニ於テ天日槍菟道河ヨリ泝リテ北シ近
江國吾名邑ニ入テ暫ク住ムヽタ更ニ近江ヨリ若狭国
ヲ経テ西但馬国ニ到テ住處ヲ定ム是ヲ以テ近江國
鏡谷陶人ハ天日槍ノ従人也故ニ天日槍但馬出島ノ人大耳
ノ女麻多鳥ヲ娶テ但馬諸助ヲウム諸助但馬日楢
杵ヲウム日楢杵清彦ヲウム清彦田道間守ヲウム
故事記曰昔新羅国主之子アリ名ハ天日矛トイフ

此人参渡来ナリ云フクルユヘハ新羅国ニ一ツノ沼アリ
名ハ阿具奴摩トイフコノ沼ノ邊ニ一リノ賤女晝寝
コヽニ日耀虹ノ如ク其陰上ヲ指スニタ一リノ賤夫アリ
其狀ヲ異ト思ヒ恒ニ其女人ノ行ヲ伺フ故ニコノ女人
其晝寝ノ時ヨリ姙身ヌ赤玉ヲウムカクテ其伺フ
所ノ賤夫其玉ヲ乞取テ恒ニ裹テ腰ニツク此人田ヲ
山谷ノ間ニ営ム故ニ耕ス人等ノ飲食ヲ一ツ牛ニ負セテ
山谷ノ中ニイリ其国主ノ子天之日矛ニアヒアフカ
クテ其人ニ問テ曰何ソ汝飲食ヲ牛ニ負セテ山コリニ
入ル汝必是牛ヲ殺シ食ント昂其人ヲ捕テ一サニ獄
ニ入ントト其人ヲ囚フ答テ曰吾レ牛ヲ殺サントニアラス

唯田ツクル人ノ食ヲ送ルノミト然モ猶赦サスカクテ其
腰ノ玉ヲ解テ其國主ノ子ニ幣フ故ニ其賤夫ヲ赦シ
其玉ヲ将来テ床邊ニシクスナハチ美麗嬢子トナル
仍テ婚シテ嫡妻トスカクテ其嬢子常ニ種々ノ珍味
ヲ設テ恒ニ其夫ニ食ス故ニ其国主ノ子心奢リテ
妻ヲ詈ル其女人ノイフ凡テ吾ハ汝之妻タルヘキノ女ニ
アラス将ニ吾祖ノ国ニ行ントト昂竊ニ小船ニノリ遁シ
渡来リ難波ニ留ル（此難波氏賣碁曾社ニ坐ス阿加流比賣ノ神ト云）是ニ於テ天之
日矛ソノ妻ノ之遁シヲ聞テ乃追渡来リ一サニ難波ニ
到ントスルノ間其渡リノ神塞テ以テイレス故ニ更ニ
還多遲摩国ニ泊リ昂其国ニ留リテ多遲摩ノ

俣尾ノ女名ハ前津見ニ娶テ子多遅摩毋呂須玖
ヲ生ムコノ子多遅摩斐泥此子多遅摩比那良岐此
子多遅摩毛理次ニ多遅摩比多訶次ニ清日子
此清日子當摩ノ咩斐ヲ娶テ子酸鹿之諸男ヲウム
次妹菅竈由良度美故ニ上ニ云多遅摩ノ比多訶其
姪由良度美ヲ娶テ子葛城之高額比賣ノ命ヲウム此
ハ息長帯比賣ノ命ノ御祖ナリ　故ニ其天之日矛持来ル物ハ玉津宝ト云珠ニ
貫又振浪比禮切浪比禮振風比禮切風比禮又奥津
鏡邊津鏡并テ八種也　此ハ伊豆志ノ八前大神也
先代舊事大成経曰鄂国出石ノ神社珠城宮天皇ノ
時新羅ノ貢スル所ノ出石小刀飛還テ鎮坐ス是ヨリ先

新羅ニ大石アリ夜ニ赤光ヲ放ツ衆庶コレヲ奇トス
一人鐵鎚ヲ以テコレヲ破ル中ニ於テ小カヲ得ル異物
トシテコレヲ王ニ獻ル王又異物トシテ王子日槍シ
テコレヲ瑞籬宮ノ天皇ニ貢セシム天皇崩スルニ仍
テ奏セス後時天皇コレヲ召テ官庫ニ入ル即飛テ淡
道ニ至リ託メ曰吾ハコレ毋劔神魂也ト仍テ祠ヲ立テ
コレヲ祭ル後年又飛テ此場ニ還ル故ニ崇祭ル
齊部廣成古語拾遺曰巻向王城ノ朝新羅皇子海
檜槍来帰タリ今但馬国出石郡ニ在テ大社トナル
ト部兼方釋日本紀ニ播磨風土記ヲ引テ曰天日
槍命韓国ヨリ度来リ宇頭河底ニ到テ宿處ヲ

葦原ノ志挙手命ニ乞テ曰汝ハ国主タリ吾宿ル
所ノ處ヲ得ント欲ス志挙昂海中ヲ許ス ソノ時客
ノ神劔ヲ以テ海水ヲ攪テコレニ宿ル又曰天日槍命
之黒葛皆但馬国ニシツ故ニ但馬伊津志ノ地ヲ召
テコレニアリ兼方案スルニ神物ハ一説并ニ故事記
ニハ種也神名帳ニ伊豆志社八座也一種ノ神物ヲ
以テ一座神躰トスルノミ
按ニ日槍ノ事彼方ノ昏ニ見ヘス松下見林ノ異
称日本傳ニ東国通鑑ヲ引テイヘルヽアリ新
羅阿達羅王四年新羅ニ迎日懸ヲ置ク初東海
ノ濱ニ人アリ夫ヲ迎島トイヒ妻ヲ細烏トヲ

一日迎烏藻ヲ海濱ニ採テ忽漂テ日本国ノ小島
ニ至ル立テ王トナル細烏其夫ヲ尋テ又漂テ
其国ニ至ル立テ妃トス時ニ迎烏細烏ヲ以テ日
月ノ精トス是ニ至テ縣ヲ置ト今按スルニ迎烏細
烏ノ事コレヲ我國史ニ證スルニ殆コレニ近キ事アリ
遠仁天皇三年新羅ノ王子天日槍来朝ス蓋シタ
日ノ精カ其名ヲ觀テ以テコレヲ知ヘシ死シテ但馬
国出石ノ大社トナリ千古ニ廟食ス誠ニ凡人ニアラ
ス此説據アルニ似タリ然モ其年代ヲ考ルニ新羅
ノ阿達羅王四年ハ後漢ノ桓帝永壽三年ニテ
本朝成務天皇七年ニ當ル垂仁天皇三年日

槍ノ来朝ヨリハ有九十四年後ナリ然ハ定カニ其
人モイヒカタシ大古ノ事臆説ヲ以テ断スヘキアラス
又按ニ日槍ノ出石ノ大社トナルヿ古語拾遺ノ説最
信スヘシ然ルヲ古事記ノ註ニ新羅ヨリ来シ八種ノ宝
物ヲ以テ出石ノ八座トス釋日本記モコレニ従テ定メリ
然ルニ日本記ヲ考ルニ新羅ノ宝物ハ七種也日槍ノ曾
孫清彦ノ時コトヽク官庫ニ納メシカハ此国ニアルヘ
キニアラス故事記ノ註ハ後人ノ附會ナルヿ明ケシ大
成経ニハ出石刀子一ツヲ當社ノ神体トス然ルニ日本記ニ
出石刀子ノ飛テ淡路島ニ至リシヿハアレモ又コノ国ニ
飯リシヿハ見ヘス風土記ニハ昔コノ地ヨリ堀出セシ
白石ヲ出石ノ神体トイヘリコレハ今ノ出石城ノ
溪水ノ流魚屋町ノ橋ノ邊ニアル大石ヲ俗ニ
出石トイフモノナリト語傳ヘリ日本紀等
ニ合サレハ拠トシカタシ延喜式ニハ座トアル
ハミナ日槍ノ御子孫ヲ崇メ祭ルナリト嘗社
ノ人ヽ傳フルコソ實シキヿナレ
續日本後紀曰仁明天皇兼和十二年七月辛酉但
馬国出石郡無位出石神ニ従五位下ヲ授ケ奉ル
国司等解状ニ依テ也
三代實録曰清和天皇貞觀十年十二月廿七日
但馬国従五位上出石神ニ正五位下ヲ授ク

同十六年三月十四日但馬国正五位下出石神ニ正
五位上ヲ授ク
弘安太田文曰當国一宮出石大社百四十一町六反
六拾歩　本家高辻姫君　案主藤肥前前司跡
子息三人分領　一人左衛門入道蓮阿　一人四
郎左衛門入道妙心　一人五郎左衛門入道定
智常荒流失三丁一反又出石郷押領四拾四反小
長月御祭田七十一町二百五十六歩
講経修理田等七町九反大
引聲　并御神楽田以下料十一町一反大
領家佃案主給六町半

定田八町八反百四十歩
按ニ上古此国ノ一宮ハ粟鹿ノ社ニ當社ヲ一宮ト称セ
シハ其始メ定カナラス弘安ノ比ステニイヒシカハコレモ
久シキヿナルヘシ神社啓蒙ニモ粟鹿ノ下ニ又出石ヲ
一宮トスト云一説ヲ出スノミ今ハ一宮トダニイヘハ當
社ノ事ニナリヌ諸社一覧ニ國府出石ニアリ祭神
トイヒシハ今ノ国郡ヲ府トシモヘルナリ国府ハ気
多郡ニアリ郡縣ノ代ノナリ當社ハ出石郡出石
郷ニイヒスエヘ出石神社ト称スルナリ此村ヲ昔宇馬
橋トヨシヲ今ハ宮内トヨブモ此神ノ社内トヨリ
ヘ又宮内坪井二村ヲ神戸郷ト名ツケシハ當社ノ

封戸トヽナリテ上古ノ社領ハ古代ハ神封トテ大社ニ
ハミナ封戸アリ封戸ノ一戸ハ稲四十束ヲ出ス米
ニシテ二石ナリ此外ニ其戸ニ夫役ヲアテ使フナリ
伊勢ノ神戸トヽ摂津ニテ神戸トヽニナ此事ハ
今此辺ニテ神部トカクハ謬ハ弘安ノ比ハ神戸郷ヨ
リ外ニテ社領ヤリ建武正平ノ間モ領家ノ号
ヲトヽメラレシヨシノ宮府今ニアリ山名家ノ時社領
二千石アリシトヽハ俗説ナリ其比ノ土地ニ何石
トヽナリハナキ事ハ永正元年ノ夏兵乱大ニ
起テ堂社殘ラス大災ニアフ天永四年ノ秋衆
民ノ助力ニヨリテ再ヒ造立シメ天正八年大間

コノ地ヲ畧定シ社領ヲ渡收シ玉フコレヨリ宮殿
頽頽シテ終ニ修理スルモノナシ小出和州公コヽニ
来タリシハシメ今ノ社ヲ再造シ同備州公華
表等ヲ立玉フ今ハ毎年九月十一日奉幣使ア
リ十一月上ノ卯ノ日新嘗ノ神事ナリ國華萬
葉記ニ祭礼九月九日コレヲ執行フトイヒシハ謬
テ今ノ出石城ノ諸杉神社ト混セシナリ
新拾遺和歌集物名調書曰但馬出石宮トヽ社
ニテナノリソトヽクサヲ

重之

千早振イヅシノ宮ノ神ノ駒人ナノリソヤタヽリモウスル

歌枕名寄ノ詞書ニハ曽根好忠カ伊馬イツシ
ノ宮ニテ名ノリソトイフ物ヨメトイヘルトナン
按ニコレハ歳旦ニ此社ヘ海藻ヲ献スルヲヨメルナリ
此草ヲナノリソト云コトハ日本紀ニ允恭天皇十一年
春三月癸卯朔丙午茅渟宮ニ幸ス衣通郎姫
歌ニ曰等虚辭陪邇枳弥毋阿閇椰毛異合儺
等利字弥能波摩毛能余留等枳弘時ニ又皇衣
通郎姫ニ謂テ曰コノ歌他人ニキカシムヘカラス皇后聞
カハ必大ニ恨ン故ニ時ノ人濱藻ヲ号テ奈能利曽毛
トイフ之トコレハ人ニナノルコトナカレトイフヲ之故ニ萬葉集
ニハ莫告藻トモ莫語トモカケリ倭名鈔ニ曰本朝式ニ
イフ莫鳴菜奈里曽漢語抄ニ云神馬藻ノ三字ノ
奈乃里曽トヲ今按ニ本文イヒタ詳ナラスタヽ神馬
ノルヲナカレノ義ヽト此説ハ重之ノ歌ノ心ヲカケリ大和本
草曰海藻本草ニ載タリ集解ニイヘル所ナノリソニ
ヨクカナヘリナノリソト名ツケシヲハ日本記允恭帝紀ニ
見ヘタリ倭俗又神馬藻トイフ和名ヲナノリソト云ユ
ヘニ神馬ニハノルヽ事ナカレトヲ義ヲ以テ神馬草トカ
ケリ下学集曰神功皇后ノ異国ヲ攻玉ヒシ時船
中馬ノ秣ナシ海中ノ藻ヲ取テ馬ニ飼フユヘニ神馬
草トヲヲ篤信曰此説イヒタ出處ヲ見ス神馬藻ト
書ユヘニカクノ如ク附會セルヘシコレナノリソト名ツケシ

日本記ノ本縁ヲシラスシテ妄ニ云ナリ下学集ノ説信
シカタシ万葉集第七第十巻ニナノリソヲヨメリ
其老タルヲホダハラトヲ倭俗正月春盤ノ上ニヲク
モノ也海中ニ生ス短キ馬ノ尾ノ如ク細葉糸ノ如ク
節々連ル枝多シ生ナル時黒シ湯ニ入レハ青クナル魚
ノ脬ノ如クナルモノ多ク枝ニツケリ見事ナル藻ナリ
毒ナシ俗ニ血気ヲ治スト云海草ノ上品ナリ本草
ニ耳草ニ反ストイヘリワカキ時ユヒキ或ハ煮テ食
ス脆ク味ヨシトコノ草ハ此社ノ古礼トシテ世ニ名高
キ事ユヘ其名義ヲ具サニ記スノミ

小盗山　神戸郷宮内ノ西北ニアル古城ナリ昔山名時
氏ノ七男伊豫守時義ノ始テ當国ヲ領セシヿハ明徳
記ニ見ユサレ共其時ノ居城ハ見閑山共云小盗山共イヘ
モタシカニ記セルモノナシ山名代々ハコヽニアリシカイ
フレノ時ニカ此山ノ名ヨロシカラヌトテ此隅トカヘリサ
レト其音ノ子シ盗ムト云ニ通フユヘ天正年中有子山ニ
ウツサレテヨリ子孫ソタチシトイフハ物イヒヘナル俗人ノ言
出セルナラン山名ハコヽニ移リテホトナク亡ヒ小出公モ子
孫シハセヲハ吉出ハ人ニヨリテ名ニハヨルヽシキニヲ

出石城　武鑑曰江戸ヨリ行程百四十九里
コレ今ノ國都也城ヲ有子山ト云天正二年山名慶五
郎氏政小盗ノ城ヲユノ絶頂ニ移シ築ク俗ニ高城ト

云同八年大閤二タヒ但馬ヲ征伐アリ養父郡ヨ
リ浅間坂ヲ踰テコヽニ至リ軍兵ヲ弘原谷福成
寺ニ屯シテ城ヲ攻ル今ノ弘原下村ト称スル処其故
跡ナリ此時山名家勢微ニシテ禦ク方ナク城ヲ
棄テ因州ニ出奔ス此時ノ城主澤庵ノ録ニハ宗詮
トアリコレハ右衛門督祐豊トテ宗詮入道ヨリ五代
司ナリ天文ノ比コノ国ノ守護トナル其子棟豊氏
熙ニ早世ス三男氏政相續シテ城主タリ天正八
年五月十六日氏政ハ出奔シ宗詮ハ留ニシリ同月二
十一日コノ地ニテ卒ス溪山ノ知明院ニ墓アリ銀山
寺殿前右金吾鉄壁照公大居士ト謚ス近年此寺
ク住僧新タニ石碑ヲタテシニ宗詮ヲ誤テ宗全トセ
リコレヨリ人ミナ持豊入道ノ墓ナリトヲモヒテ今
ノ出石ニアルヿシキモノナリトヲコレタヽ筆者ノ罪ヒ
續太平記ニ昭豊ト記セシハ棟豊ヲ謬レルナリ又豊
國入道禪高ノ小盗ニ居シトイヒ或ハ此城ナリシナ
トヲハ共ニ大ナル謬ナリ禪高ハ其先祖時氏ヨリ
分レテ因幡山名ナレハ但馬ト同姓別家ナリ後ニ大
閤ヨリ七美郡ヲ賜テ今ニイヒスヘシ元来此国ノ人
ノヽフニ思ニテカクイヒ出セルナリ大閤ハ山名一族退
治ノ後其弟秀長ヲ以テ国守トシ當城ニ居ラ
シメ玉フコレヨリ後ノ城主武鑑萬葉記等ノ載

ル処ニヨリテ傳記シテシヘシルス
天正八年大閤ノ弟羽紫美濃守秀長城主タリ
同十三年和州郡山ニ移リ大和大納言ト称ス
天正十三年前野但馬守長泰コレニ居文録四年
関白秀次公ノ事ニ座シテ死シ賜フ
文録四年小出大和守吉政播州龍野ヨリコヽニ移リ
六萬石ヲ領ス父播摩守秀政ハ泉州岸ノ和田ニ住
リテ別ニ三萬石ヲ領ス父子合セテ小出家九萬石ト
称セリ父秀政卒シテ吉政ニタ岸和田ニ移リ播
摩守ト改ム此時一万石ヲ弟大隅守ニ分フ
慶長九年小出大和守吉英吉政ノ嫡子ナリ天正十
五年生ル慶長九年十八歳ニテ父ニ代テコヽニ居リ
五万石ヲ領スコノ歳高城ヲ麓ニウツシ築ノコレ今
ノ城郭也初ハ右京大夫ト云慶長十八年父吉政
卒ス吉英又岸和田ニ移ル世ニ古大和ト称スルコ
トナリ
慶長十八年小出信濃守吉親吉政ノ次男ナリ兄
吉英ノ城代トシテコヽニ居ル元和五年岸和田三万
石ヲ賜テ丹波園部ニ移ル
元和五年大和守吉英岸和田ヨリ飯ル寛文六年
卒ス享年八十謚シ雪江院殿鴻峯不白大居士
ト云

寛文六年小出修理亮吉重大和守吉英ノ嫡子
ニ
慶長十三年出石城中ニ生ル初ハ伊豆守ト云延宝
二年正月十八日東都ノ邸ニ卒ス年六十七謚シ真
常院殿鑑空宗照大居士ト云コノ時弟四人ヲ分封
ス摧助千五百石縫殿助千五百石内記千五百石宮内
二千石以上寛文年中ノ事ナリ
延宝二年小出備前守英安修理亮吉重ノ嫡子
ナリ
寛永十四年東都ノ邸ニ生ル元禄四年辛未十一月廿
六日出石城中ニ卒ス年五十四入佐山下宗鏡寺ニ葬
ル謚シ法雲院殿貫公翁紹通大居士ト云
元禄四年小出大和守英益備前守英安ノ嫡子ナリ
寛文七年東都邸ニ生ル元禄五年十月十日卒ス
年二十六謚シ集雲院殿淳岳紹貞大居士ト云
元禄五年小出播摩守英長大和守英益ノ養子
ナリ寛文十年生ル元禄七年十二月十七日卒年三
十謚シ仙峯院殿休心大嶽大居士ト云
元禄八年小出久千代英及播摩守英長ノ嫡子十
リ元禄七年十二月生ル同九年十一月廿二日卒ス年
三歳謚シ恵光傳智大童子ト云
元禄九年久世大和守在番

元禄十年松平伊賀守忠徳武州岩付ヨリ移リ四万八千石ヲ領ス室永三年信州上田ト地ヲ易テ封セラル

諸杉神社　日本紀ニ天日槍出島ノ人太耳ノ女麻多烏ヲ娶テ子但馬諸助ヲウムト故事記ニハ毋呂須玖ト カケリコレ延喜式ニ載ル諸杉ナリ其子孫等前ニ具ニ記ス然ルニ式ニ據ハ小社ナリ 松平公ノコヽニ侯タリシ時 新タニ宮ツクリシ玉ヒヲヨリ祭礼等盛ニナリシトソ社ハ有子山ニアリ祭日九月九日

伊福部　延喜式ニ大生部兵生神社トアルヤコレナラニコレモ日槍ノ子孫トヱヘリ 今ノ出石ノ城西中村ニアリ

法城寺　新刄銘盡曰昔法城寺ノ比祖貞宗カ弟子國光但別ノ法城寺トヱフ寺内ニ居住シテ鍛フ故ニ自然ト称号ト成テ代ヽ法城寺ト号ス 今ニ至テ但別法成寺ノ寺内ニソノ古跡アリトイヘリ

按ニ此寺今ノ出石ノ西ニアリ其地ヲ鍛冶屋村トヱ此村ノ南ハ清水別墅ナリ 昔此水ニテ刄ヲ淬シトヱ傳ヘリ其水ノ盛シ器トテ名ニテ長ク刳タルニテ今モ遺レリ國光ハ後醍醐天皇ノ時ノ人ナレハ此寺ノ開基ハ猶モ久シカルヘシ因ニ考ニ出ス

谷山　風土記曰ソホク良材佳菓ヲ出ス鳥獸繁多也山頂峻ナラス群山連綿シテ他山皆峻シク高シ故ニ其

形チ谷ノ如シ故ニ谷山ト云

按ニ風土記ノ時イマタ城郭アラスタヽ山ノ名ヲ記スノミ今ノ安地山ト称フルモノ實谷山ナルカ今ハ城東ノ谷ノ名トナリ土大夫ノ館舍半ハ此地ニアリ旦ツ昔ハ丹波路ノ往来有子山ノ南ニ出テ上野郷ヲ経タリコレヲ日野邊通ト云小出家ノ時長谷兵大夫ト云モノ有子山ノ西ニ館ヲ構ヘテ丹波口ノ鎮トス今福成寺ノ南ニ兵大夫カ凡ト云處ナリ其古蹟ナリ後ニ其路ヲ迂遠ナリトシ新ニ安地山ヲ開テ大道ヲ通セラレソレヨリコノ地ニタ往来ノ街トナレリ

谷山川　風土記曰源ト谷山ニイツ多ク佐気年魚ヲ出ス川

上ニ神社アリ水上ノ社ト号ス祭ルトコロ事代主ノ命ヽ

此神社未考

谷山花園　瞽捜集曰寛永三年四月廿九日谷山之花園ニ於テ芍薬ヲ見ル詩

澤菴和尚

芍薬紅綻千萬枝明朝風雨不可期愧吾醉後被花笑自酌清泉悪詩

同歌部曰卯月廿九日谷山ノ花畠芍薬盛ナルヨシアリテ花見ニカリテ

同人

○濯

入相ニヨソノタベモ深ニ草花ノアタリハ暮ルヒナシ

按ニ小出公ノ時ニツノ園アリ一ツハ櫻ノ馬場ニアリ今士人ノ家トナル一ハ谷山ニアリ松平公コヽニ寺ヲウツシ今ノ官舍ノ地ナリトヽ云

礒部　延喜式ニ石部神社トアルコレナリ俗ニ三本木トヽ云

天日槍ノ御子孫ナリ

經王寺　艸山集ニ曰經王寺鐘銘并ニ序　但州出石郡小出氏某為ニ父母及妻子菩提資糧鑄成梵鐘一口ヲ掛著于郡之一乘山經王寺乃託ニ住持僧日近ニ乞予之銘辭夫鐘之為後也獨孤及之文李白之銘煥然而可觀焉況乎變態奇巧非吾所能也曰直ニ作ニ卑銘六韻以塞ニ其責一云

銘曰

無邊大巧法界為鑪赫烈惠猷寂止定模鑄無明銅性離精麁成無漏鐘聲出有無喚醒覺月吼破迷衢闔國斯和飽聞山呼

按ニ此寺往古八會誓山藥王寺トヽ云テ真言宗也天正年中日道上人改テ法華ト云ル天正十八年前野但馬守長泰課役免除ノ制札アリ

吉祥寺　磬搜集曰吉祥寺ノ住持ヨリ嵯峨味噌ト云モノヲ給ハル返事ノハシニ

澤菴和尚

イトヘトテカヽル浮世ノサカミヲリナメアミタブツト教ケル人

寺ハ今城東谷山ニアリ曹洞宗

唱念寺　往古ハ小盗山ノ下ニアリ天正二年来誉上人

今ノ濟船山ニ移ス天正十年沢菴和尚十歳ニテ當

寺ニ入テ出家シ住持衆誉上人ニ従テ淨土門ノ教ヲウ

クト紀年録ニアリ

瞽捜集曰唱念寺ノ花天守来臨

澤菴

限リアリテ弥生ノ空ハクレヌレト春イヅヘクモ花散又世ニ

仝

盛リナル櫻カ本ハ二タヒラス花チル里ニ春ハイヌメリ

按ニ沢菴和尚ノ出セルハ録ニ明文アリトイヘトモ當国ニ

テハ如来寺トイヒ傳ヘリコレニタヱヘアリ如来寺ハ和

尚ノ見祖開基セリ其事天祐ノ文ニ詳ナリ

考證ノ為コヽニ記ス

夫但別如来寺之草創者武別品川東海淨刹

開山師祖澤菴大和尚之阿爺前能別大守秋庭

氏綱典雲峯以開居士三世先伊賀守入道岩松

宗栄居士詣信別善光寺逾月累日借仏工師手

彫刻如来尊客畢供奉帰但別於入佐山麓建立

一字堂奉安置如来然後自信別善光寺請一僧伽

令備香花此事聞洛有初賜新善光寺額一百年

前易地今在出石城外宗栄居士四世孫半兵衛尉
真典月巖宗互信女寛永十二乙亥年如来堂再興
一新葺之以銅瓦者思不朽之事也予茲年萬治四暦
辛丑春二月中旬初来圖覚山居願成寺者數日其内
因如来當在慶巻上人之住招遊彼寺矣卒賦一偈
以信筆書焉

前寶山天祐叟紹果

信善光芳但善光光々相映清光如来 行号遍
山野孰與星辰日月光

成光房　コレハ本光寺ノ塔頭尊重院ノ事ナリ
瞽捜集曰サル座敷ニテ風雅ノアリシニアタリノ家
ヤ子フクトテ人數集リテワメキサハキケリアナカシニシト
トイヒテモキヽイレカタシ所ハ法華寺之房ノ成光房ト
聞テハイカイニ

澤庵

ワメクナトイヘモキカス法華宗シヤウコハ房ノヤ子ヲフクトテ
本光寺ハ往古城崎郡田結庄ニアリ 永享十二年日會
上人開基ス文明五年出石郡小盜山下ニ移シ文禄四年
又今ノ出石ニ移ス此時尊重院ハ當郡寺坂村ニアリテ
延德山妙泉寺ト号慶長五年本光寺ノ境内ニ移
シテ真子院トナル

宗鏡寺　澤菴紀年録曰但列出石之圓覚山宗鏡寺

者恵日之大道一以禅師開基之地也
宗鏡寺トイフハ山名時氏ノ四男陸奥守氏清ノ法号ナ
リ此人ノ草創ユヘカク名ツケシトイヒ傳フサレト氏清ノ當
國ノ守護タルハ明徳二年ニテ其年ノ冬京都内野ニテ
戦死ス大道ノ遷化應安三年ヨリハ二十余年後ナリ
年代ハタカヘヒ大道ノ推テ開山トセルカ或ハ別人ノ建
立ニテ宗鏡録ノ意ヲ取テ名ツケシカ古記亡失セシユヘ
詳ニ考ヘカタレスヘテ山名代〻禅法ヲ好ミ其タ此寺ヲ帰依
ス往古ハ小盗山ノ麓ニアリシ城ヲ移サレシ時寺ヲモ今テ
ノ地ニ引レシトナヒ山名亡ヒテ寺モ一タ廢ル元和二年沢菴
和尚泉州ノ南宗寺ニアリ其北小出公父子但泉両地ニ
候タリ今茲大和守吉英泉州ヲ辞シテ但州ニ帰ル
沢菴和州公ニ謁シテ曰檀越宗鏡ノ廢ヲ再興シ先考
冥福ヲ修セヨト和州許諾シ玉フ落成ノ日ニ至テ沢菴
但州ニ赴キ供養ノ儀ヲ整フ八月二十九日ヲ以テ開山ノ
像ヲ祖塔ニ安置シ点座枯香ノ佛事厳粛ナリト紀
年録ニ見ユコレヨリ小出家代々ノ神主ヲ當寺ニ藏
ム東照宮ヲ建ラレシモコノ時トナン
按ニ和州公ノ泉州ヨリ帰リ玉ヒシハ元和五年ナリコヽ
ニ三年トイフ不審
投淵軒　紀年録ヲ考ルニ元和六年庚申沢菴和尚四十八
藏幾内ヨリ但州ニ帰リ第菴ヲ宗鏡寺ノ後山縛

テシリ扁テ投淵軒ト云ル衣鉢ノ外ハタヽ鐺児一ツアリテ
ツカラ自ラ米シ炊キ粥モ成テ朝タヲ給ク萬年山相國
寺ノ所城中晩長老一偈シ寄テ曰
飢喫飯来寒着衣盡融忘却是兼非古今一色
青山面出岫白雲自在飛
同八年烏丸光廣卿但山ニ来テ和尚シ訪フ唱
和ノ詩歌數篇アリ寛永元年彈正尹高松好仁親王
但山シ攀テ其扉シ扣ク和尚堅ク閉テ謁セス親王
空ク飯洛シ玉フ
按ニ光廣卿コノ時ノ唱和彼家ノ紅葉集ニ見ヘスタ
ダ寛文年中江戸ニテノ和歌アリ

江戸ニ侍リケル比澤菴和尚ノ旅館ヲ尋子ニカリ
ルニ櫻ノサカリ成ケレハ　烏丸大納言光廣卿
山里ニカヽル櫻ノ花ナクハウキ世ノ外ノ春モシラシシ
返シ
問人シナクサメカ子ツ花ニ風月サヘ暗キヨハノハルサメ
此歌ノサヽ紀年録ニイフ所トヨク似タリモシハ一ツコ
トニテイツレッアヤニシルニヤ
願成寺　コレハ宗鏡寺ノ塔頭ナリ聲捜集ニ曰願成
寺ノ庭花　澤菴

曇ル日モ紅櫻テル影ハ枝ニモ葉ニモアヒルイロカナ

正受院　山名時氏ノ嫡子右衛門佐師義ノ法名正受院大盛興公ト云其十三回忌ニ月菴和尚ヲ請シテ追福ヲ修セラレシ事月菴録ニ見エ然ハ寺モ其菩提ノ爲ニエラレテカク名ツケシナリ近年避ルコトアリトテ正眼寺ト改メシハイト本意ナキ事ニテコヽニ來リ住持周嶽西堂ニ謁シ兒十歳ニ至ラハ出家セシメント約セシコト年譜ニアリコレモ宗鏡寺ノ塔頭ナリ此外極樂寺ハ山名右衛門督義親ノ法名ナリ天正元年卒去ノヨシ系図ニ見エ又沢菴和尚十四歳ノ時淨土門ヲ出テ禪ニ歸シ勝福寺ニ入テ希先西堂ヲ授業ノ師トセラレシ事モ録ニアリサセルヿナキユヘ別ニアケス

入佐山　此山ノ名ハ後撰集ヨリアラハル但馬ト定ニリタルハ順德院ノ八雲抄ソ始メナルヘキヲレヨリ以來代〻ノ詠歌シケシ悉クハアケカタシ今タヽ世ニアニ子クシラレタルノミヲコヽニ記

後撰集

梓弓入佐ノ山ノ秋霧ノアタルコトニヤ色ニサルラン

北村季吟八代集抄曰入佐山但馬之霧ノ當ル度ニナリ弓ノ縁語ト

金葉集春部　霞ノ心ヲ讀ル

源宗于朝臣

梓弓八ルノ気色ニナリニケリ入佐ノ山ニ霞タナヒク

大宰大貳長實

拄曰八佐山但馬ヘ弓イル縁ヲカケテナルヘシ

同戀部　寄山戀トイヘルヿヲヨメル

大中臣公長朝臣

戀佗テ思ヒ入佐ノ山ノ端ニ出ル月日ノツモリヌルカナ

拄曰入佐山但馬ヘ戀佗テ思ヒ入トソヘテ出ル月日トイヒカケテヘ戀佗テ月日積リヒ心ナルヘシ

千載集夏部

權大納言宗家

夕月夜入佐ノ山ノ木カクレニホノカニナノル時鳥カナ

拄曰入佐山但馬ヘ夕月ノイルトウケテヘホノカニモ夕月ノ縁語ヘ心ハ明ヘ

新古今集春部

權中納言公經

春深ク尋子入佐ノ山ノ端ニホノ見シ雲ノ色ソ残レル

拄曰入佐山但馬ヘ春フカク赤ニケリテ世上ハ花モナケレハ入佐ノ山ニ尋入ルコヽニモ花ハ残ラテ盛ノ花ノ比ホノシ雲ノ色ソノコレルトヘ

前大政大臣

時鳥鳴テ入佐ノ山ノ端ハ月ユヘヨリモ恨メシキカナ

拄曰月ノ入佐ノ山ノウラメシカリシニ時鳥ノ鳴テイル山ハ猶ウキトヽ成ヘシ

歌枕

鴨長明

梓弓入佐ノ櫻イカナランシテ春雨フラヌ日モナシ

入佐原　入佐山ハ今ノ出石城ノ東北ニアリシカレハ入佐ノ原モ真西ノ平野ニサスナラン

夫木集

梓弓ハルノ日クラシ引ツレテ入佐ノ原ニ圓居シソスル

按ニ入佐山ノ在処古来サタカナラス天祐ノ文ニハ宮内山ニ指テイヘリサレト澤庵ノ今ノ出石ノ宗鏡寺ニテ入佐ノ歌アニタ詠セラレシヨリツイニ其山ニ入佐トヱナラハセリ然ルニコノ山ハ出石ノ東ニアレハ昔ノ人ノ月ノイルサト詠セシニハコトカハレリ又此山ノ東ニ古寺ト云処アリ昔コヽニ涅槃寺トイフ大寺アリシトナニ芭蕉ノ謠ニ身ハフルテラノ軒ノ草トカキシモ思ヒ入佐ノ山ハアレトヽイヒツクヘキ縁ナリナト語リ傳ヘリ

経家

室野卿

太田文ニ曰八幡宮領菅庄四十一町七反三百歩内地頭二人北方十六町七反小地頭藤肥前左衛門大夫経久南方二十五町半地頭多多良岐孫太郎長基

此地今タヽ菅谷ト称シテ卿ノ名ヲシルモノナシサレト荒木村ノ北ノ田地ニハ室野代トイフコレ古言ノ残リシナリ俗ニ臺ノ字書ハ謬ナリ田ニ代ト云フハ延喜式ニ見エ東鑑ニハ田代ト云リ今モ農家ノ詞ニ幾

代ト云皆コノ事ニ御ノワケシラサルモノハコレラ室ノ
尾明神ノ社領ニテアリシナトイフ附會ノ甚シキ〻

村數四

細見　荒木　福見　暮坂

管神　三代實錄曰清和天皇貞觀十年閏十二月廿一
日庚戌但馬国正六位上管神ニ従五位下ヲ授ク
按ニ延喜式ニ須義神社トアルモコレナリ今荒木
村ニイマス八幡宮ナリ太田文ニ神田六町二反アリ
祭礼八月十五日　流鏑馬アリ

埴野郷

太田文曰土野庄七拾町　公文土野源太家後跡御家人
勤仕職近年為ニ本所一被ニ抑留一之

村數

上野　日野邊　桐野　寺坂　水石　畑

右土野庄トヲコヨリ東ヘスヘテ山之中ト称ス

市場　南尾　出合　日殿　矢根　奥矢根

右出合郷トヲ

上野　凡土記曰多ク絹帛木綿脩竹等ヲ出ス公穀二
百九假栗七十九

日邊　凡土記曰多ク桑栗柳等ヲイタス公穀百三十九
假栗七十九

日野邊山凡土記此山至テ嶮シ熊猿ノ屬繁多ニ諸木シ

ニシニクリ

桐野 延喜式ニ桐野神社トアルハ此村ニイニスナリ今
ハ加茂大明神ト云テ 桐野水石寺坂日野邊上野五
村ノ氏神ナリ又山ニ古城アリ山名ノ時福富甲斐入
道宗顯コレニ居ル天正年中山名亡ヒテ此城モ廃レス
水石 風土記曰麻桑絹木綿等シ出ス公穀百五十九假
粟四十二九
延喜式曰御出石神社名神大 今コノ神社ナシタヽ荒
神ニ社アリ或ハ云桐野賀茂大明神コレナリト然モ桐野
御出石トモニ式内ニアリテモトヨリ二社ナリ今混シテ一ツ
ニシカタシ又北地ニ木船大明神アリ俗ニ賀茂ノ御前ト

称スコレ実ノ桐野神社ニテ賀茂ハイヨヽ御出石神社
ナルカ式ニ大社トアレハ妄リニハタヘシトシモハル
水石川 風土記曰源ト日野邊ニイワ流下テ海ニ入ル多ク
大小ノ雑魚ヲ出ス又年魚多クシ
今ハワカノ溪水ナリ 畑村ヨリ出テ出合川ト合
ス
出合山 風土記曰此山諸山郡別ノ其中央ニ故ニ名ツク
此下脱簡三丁半
日殿 風土記曰多ク紙麻苧良村倫竹等シ出タス公穀
八十九假粟四十九
矢根 太田文曰賀茂社領 矢根庄十五町九十歩領

家知德門院　公文矢根夜叉王大郎　跡

高橋郷

佐々木庄　太田文曰法勝寺領崔岐庄七十二町九反四拾六分　但中分地　東方領家尾張三位入道子息三人西方地頭太田左衛門三郎入道如道　但於閑泉御公事在京役以下事者如中分以前人々勤仕ラレ

村數

河本　西谷　天谷　小谷　佐々木　相田　正法寺　平田　栗尾

右佐々木庄ト云

佐田　久畑　後村　中村　小坂

右片野左ト云

藁王寺　大河内

右高橋庄ト云

天谷　風土記曰多黍稗麻胡麻漆等ヲ出ス公穀五十九假栗三十九

佐々伎神社　延喜式ニアリ小社ナリ今佐々木村ニイ一スハ二宮大明神大崎大明神ニ社ナリ何レカ古祠ナルヲ知ス

安国寺　年代記曰人皇九十七代光明院御字暦應二年毎別安国寺立今相田村ニアリ夢想國師開山ニテ尊氏ノ建立ト云

栗尾　風土記曰良材倫竹奇石ヲ出ス公穀百九十九假

粟七十二尺

庁野庄　太田文曰崇徳院御影堂領庁野庄三十九町二反三百歩　領家二位律師　不出注文之間任古帳註進之

久畑　風土記曰脩行蒭蕘布帛等ノ出ス公穀百二十九假粟四十九　神アリ久畑明神ト号ス祭トコロ須佐能烏ノ尊之春秋午ノ日ヲ以テ之ヲ祭ル

今、久畑村ニテ一宮大明神トヱヒ郷中ニテノ一宮ナルヘシコレニ因テ佐々木ヲ二ノ宮ト称ス

久畑山　風土記曰此山中腰以下甚嶮し禽獸多ク民用トナル良材ニタヅナカラス此山往昔畑ニメ山ニアラス

神護景雲二年三月一夜ニメ山ヲ成ス故ニ久畑山ト云

薬王寺　太田文曰聖護院領薬王寺十三町五反二百七拾歩　地頭葦山七郎家貫

大河内　風土記曰布麻紙糸等ヲ出ス公穀百七十九假粟六十九

大河内川　風土記曰源ハ丹波国ニ出ス多年魚ヲ出ス

已下脱漏三丁計

按ニ此説アヤマレリ但馬丹波ノ境ハ登尾トテ高山アリ嶺ノ中ハ五丈アリ此山ヲ隔テ両国ノ水北流ス其源委ヲノツカラ別ニ

資毋郷

太田文曰法金剛院領太田庄八拾町　伯宮御領地頭
越前前司後室　不出註文之間任古帳註進之東
鑑曰文治二年五月廿五日能保朝臣平六儀仗時定及
常陸房昌明等ガ飛脚行家ノ首ヲ持参ス鎌倉
實記ニコノ恩賞トシテ昌明ニ摂津但馬三ヶ太田葉
室ニ箇ノ庄ヲ賜フトアリ太田ノ庄ハコレナリ其子孫代
々ニアリテ太田ヲ氏トセリ太平記ノ太田判官ナトコレナリ

村數十七

唐川　木村　市場　中山　三原　東里　日向
坂津　口赤花　奥赤花　只藤森　中藤森
奥藤ガ森　坂野　出生　高龍寺　西野、

右太田ノ庄ト云今ハ郷ノ名ヲシルモノナシサレト昔ヨリ
此郡ニ資毋郷トイフ名ハ傳ハリテ其文字モ土地モ
實カナラス近キ代ヨリ下郷ト書始メテス(ニ)今ノ
出石ノ西北ノ地ヲ称ス謬リ甚キ事ナリ源順倭名鈔
ニ郷ノ名ヲ載セシハ村上天皇ノ御宇ナリ其時ノ国府ハ
気多郡ニアリ然ハ今ノ出石ノ西北ハ右ノ国府ノ東
南ヘイカテ其地ヲ下トイハシヤ

金藏寺　寂室錄曰　書金藏山壁二首
寂室和尚
借此閑房恰一年嶺雲溪月伴古禪明朝欲下巖前

路又向何山石上眠
風撹飛泉送冷聲前峯月上竹窓明老来殊覚山中
好死在巖根骨亦清
又備前ノ要侍者予ニ偕テ但之金藏山ニ寓スト云古詩アリ
寺ハ中山村ニアリ 金藏山金藏寺ト云 帰寂室 和尚ノ
閑墓ハ何人カ未考
高瀧寺 太田文曰高瀧寺五町 地頭太田三郎次郎入道行願
スヘテ此郷ハ丹後境ヨリ藤カ森ヨリ厚氷嶺ニ天テ宮
津ヘ通ス坂路十四町嶺ヨリ出石城ニ至テ四里十七町半アリ

但馬考巻之六

出石城臣櫻良輸輯

地理第四

氣多郡

源順倭名類聚鈔ニ載ル郷八
太多 三方 樂前 高田 日置 高生
挾沼 賀陽
以上八郷ニ村数七十四
延喜式神名帳曰氣多郡 尤一座 大四座 小十七座
多麻良伎神社 氣多神社 葦田神社
上野神社 賣布神社 鷹貫神社

久刀寸兵主神社　日置神社　揖縫神社
井田神社　思往神社　御井神社
高負神社　佐久神社　神門神社
伊智神社　須谷神社　山神社名神大
戸神社名神大　雷神社名神大　擽撥神社名神大

大多郷

弘安太田文曰伊勢太神宮領大多庄八拾一町六反百十八歩
領家岩倉皇后宮權大進　地頭樂前藤内兵衛入道

村數十九

十戸　比垣　漆垣　山宮　石井　太多
橋本　東河内　水口　稲葉　萬劫　山田

萬場　名色　栗柄野　庄境　久田谷
田口　羽尻

按ニ此郷七義合ニトナリテ郡中ノ西境ナリコレヨリ口三方樂前ニテ三郷三拾四村又ヘテ西ノ下谷ト称スコノ内漆垣村今ハタヘタリ

山神社　延喜式ヲ考レハ名神大社ニ今此村ヲ山宮ト称ス

三代実録曰清和天皇貞觀十年十月廿七日丙戌但馬国従五位下山神ニ従五位上ヲ授ク

比曽寺　元亨釋書ヲ考ルニ延朗上人ハ養父郡ノ人ナリ二親ヲ喪シテヨリ郡ノ比曽寺ニ往テ釈典ヲ

讀年四ニシテ園城ノ永證ニ投シテ台教ヲ学フ
翌歳出家ス十八ニシテ比曽寺田院ニ帰テ専ラ法
華ヲヨムト云ヘリ寺ハ今ノ比垣村ニアリ順礼ノ四番ノ
然ルニ甚タ小寺ニシテ古記ノ載ル所ニ似ス或曰大多
山宮両村ノ間ニ比曽寺カ森ト云所アリ其地平廣
ニシテ古木岑ヲ蔚タリコレ古代大寺ノ跡ナリト殆ト是
ナラン釋書ニ延朗ノ同郡ト云恵空カ和解ニモ文ニ
役ヲ養父郡トス共ニ謬アリ
太田文曰天台未寺比曽寺拾一町八反　地頭楽前
藤内兵衛入道了一
戸神社　延喜式ヲ考ルニ名神大社ノ今ノ十ノ村ニイ
ニス氏神ニテ神明ノ中古ニテ大社ニテ諸方ヨリ崇
敬セシヨシ話リ傳フ
三代實録曰清和天皇貞觀十年十二月廿七日丙
戌但馬国従五位下戸神ニ従五位上ヲ授ク
此村ニ瀑布アリ郡ノ形勝ナリコノ流ニ牛尾溫ノ
生ス俗ニノボリト称ス菜中ノ佳品ナリ何瀬ノ
金山等數ルニ假アラス

三方郷

太田文曰横川中堂領三方庄五拾九町七反百二十歩領
家越中律師定範　不出註文之間任古帳註進之

村數十

芝　安良川　播子垣　廣井　殿村　栗山

觀音寺　森山　知見　三所

觀音寺　太田文曰熊野山領觀音寺九町四反戴百四十歩　地頭太田三郎治郎入道行願

今ハ村ノ名シモ直ニ觀音寺ト云寺ハ惠心僧都ノ開基ナリ寛仁元年丁丑建立ハ瀧泉僧都行長阿闍梨ノ天永二年辛卯又涅槃像ノ裏ニ天正九年六坊ノ名アリ觀音寺ハ其惣名ノ今ハ順礼ノ第五番ノ此村ノ後山鶴峯ニ坂屋播磨守光成ノ古城アリ其家臣国屋安田等ノ家ノ址モ村ノ奥ノ陸田ニノコリ又コノ地ニ播磨守ノ墓アリ往年千右衛門トテ好事ノモノアリテ新ニ築ケリ実ノモノニアラス此外森山ノ明禅寺順礼ノ六番ノ

樂前郷

太田文曰樂前庄四十八町三反六十二分但中分地南庄十四町半九歩　北庄二十四町半九歩　不出註文之間任建治二年帳注進之

村數五

伊府　篠垣　佐田

右北庄ト云

野村　伊原

右東方ト云伊原ハ今道場ト云太田文ニハ南北ト分テリ

佐田村ノ後山ヲ楽前ト云郷ノ名モコレヲ取シヘ此山ニ垣屋隠岐守ノ古城アリ真傳八人物考ニ載ス

高田郷

太田文ニ高田郷六十七町四反百六十三歩　地頭高田次郎忠貞

村數

夏栗（なつくり）　久斗（くと）　祢布（ねふ）　石立　国分寺　水上（みのかみ）

久斗　延喜式ニ久刀（くと）寸兵主神社アリ此村ニイニスナリ此村ノ溪辺ニ巨石アリ中ニ小蛇（ワニ）アリテ蟠リシル丁幾年ナルヿシラス時々石ノ縫（メ）間ニ身ヲ露シテ終ニ其首尾ヲ出サス土人称メ石龍ト云大明一統志ヲ考ニ重慶府ノ城西二十里ニ蟄龍巖アリ石縫間ヨリ泉出テ巖下ニ瀉入ル其泉中ニ小龍アリ雨ヲ禱レハ輙應ス張公佐コレカ記ヲ作ルト今此地ノアル所モ蟄龍巖ナリ

国分寺　續日本紀ニ聖武天皇天平十三年正月丁酉故大政大臣藤原朝臣家食封五千戸ヲ返シ上ル二千戸ハ舊ニ依テ其家ニ返シ賜ヒ三千戸ハ諸国ノ国分

寺ニ施入シテ丈六ノ佛像ヲ造ルノ料ニアツ同年二月乙巳
詔曰云々天下諸国ヲシテ各敬テ七重ノ塔一區ヲ作リ并ニ
金光明最勝王經妙法蓮華經各十部ヲ写サシメ朕又別ニ金字
金光明最勝王經ヲ写シ塔コトニ各一部ヲ置シメ冀フ所ハ聖法
ノ盛ナル天地ト比ニ永ク流ヘ擁護ノ恩幽明ニ被テ恒ニ
満ンイヲ其塔ヲ造ルノ寺ハ兼テハ国華タリ必好処
ヲ擇ミ實ニ長久ニスヘシ人ニ近ケレハ薫臭ノ及フ所ヲ
欲セス人ニ遠ケレハ衆ヲ勞シテ飯キ集ニルヲ欲セス
国司等各務テ潔清ヲ尽スヘシ近ハ諸天ヲ感セシメ
テ庶幾ハ臨擁セシメン殿通ニ布告テ朕カ意ヲ知
シメヨ又国コトニ僧寺ニ五十戸水四十町ヲ施シ封シ庄

寺ニハ水田十町ヲ施シ僧寺ニハ必二十僧アラシメ其寺ノ
名ハ金光明四天王護国之寺トス尼寺ニハ一ナ尼アリ
其寺ノ名ヲハ法華滅罪之寺トス両寺相去テ宜シク
教戒ヲウクヘシ若闕アラハ即補ヒ満ツヘシ其僧尼毎
月八日必最勝王経ヲ轉讀スヘシ月半ニ至ルコトニ羯磨
ヲ誦戒シ毎月六齋日公私漁猟シ殺生スルヲ得
サシ国司等宜ク恒ニ検校ヲ加フヘシ
古ノ文ニ就テ考ルハ聖武天皇ノ天平十三年ヲ開基ト
スヘシ国コトニ立ラルヽユヘ通シテ国分寺トイヘト其実
ハ僧寺ノ名ヲハ金光明寺トヽ尼寺ヲ法華寺トヽ
タヽ續日本紀ニ直ニ國分寺立トイハサルユヘ卒尓

ニ見分ケカタシ故ニ林氏ノ一覧等ニ闕テ記サス中比
作出セル年代記ニモ天平九年国分寺立トアリ以来
其謬リヲ受テ改ムル人ナシ本朝通記等コレヲ国史
ニ考ヘスシテ俗説ノ一ニ記ス鬼莽ト謂ヘシ又俗ニ行
基ノ開基ト云モ非ス行基ハ真比寺ヲ多ク作
ラシメ国史ニモ見ユレ共国分寺ニ於テハ直ニ聖武
帝ノ御願ニテ行基ノアツカラサルヿ本文明ラサレト
中古以来古記亡失セシユヘ住持タル身モ真実ヲ知ラス
古寺ハ行基ノ開基ニシテ本尊ハ春日ノ御作服立
ハ毗首羯磨堂ハ飛弾ノエト云迄代縁起作リ
定法ナレハコレヲハ深ク責ルニタラス

同十九年十月己卯詔ヲ曰真僧寺尼寺ノ水田ハ前ヨ
リ入ル数ヲ除ク已外更ニ田地ヲ加ヘ僧寺ニ九十町尼寺
ニ四十町
孝謙天皇勝宝八歳十二月己亥但馬等二十六国
国別ニ灌頂幡一具道場幡四十九首緋綱二條
ヲ頒チ下シ以テ周忌御斎ノ荘飾ニアテシム用ヒヲハ
ル寸ハ金光明寺ニ收メ置テ永ク寺物トス事ニ隨テ
出シ用ヒシム
光仁天皇宝亀八年七月癸亥但馬国国分寺ノ塔
ニ震ス
震ハ雷ノ撃ルヽ己上續日本紀

清和天皇貞觀三年十一月九五日己丑是ヨリサキ後
五位上行但馬權守豊井王公廨ニ造ル幡十八旒各
長一丈五尺ヲ割テ国分寺ニ施入シ官裁ヲ請テ白永ノ
官帳ニ附テ以テ御願ヲ資ント大政官ノ處分請ニ
依ル 三代実録
延喜或曰国分寺料二萬束
弘安太田文曰法勝寺末寺国分寺三拾四町九歩内
寺用田十町八反三百歩定田九三町一反七十二歩
領家白川中将
建武五年ノ院宣今民間ニ傳ハレリ
法勝寺領但馬国国分寺如元可被知行者院宣
如此依テ執達如件ノ建武五年六月三日　左兵
衛督　白川中将殿
コレモト法勝寺領ニシテ白河家代ニ知行ス其内ニテ
国分寺入リ用ヲ出スヿ太田文ニ記スカ如シ其後山
名播广守滿幸知行ス滿幸ニテ山名豊詮相續
スコレハ京全入道ノ孫教豊ノ次男ナリ然ルニ法勝寺
領国中ニ多シ山名家ノ知行セシハコレノミニハアラシ
天正年中兵火ニ罹リテ再建ナシ今コノ地ヲ直国
分寺村ト称ス水田ノ中ニ遺址アリ礎ナラノコリ其
傍ニ小庵ヲ縛テタヽ寺號ヲ傳ヘリ
日置郷

太田文曰日置郷百四十六町七反百九十四歩
地頭越生兵衛太郎長經
今ノ村數
日置　多田谷　伊福　上郷　中郷
日置村　湯嶋道記曰此邊左右ノ畑ニ柳ヲ多ク植テ
利トス是ハ葛籠ノ形ヒタル大小ノ器ヲ製シテ但馬
行事柳行李ト名ツケテ大坂有馬ノ市ニ出シテ鬻ノ
料ニ
伊福八幡宮　太田文曰八幡領伊福別宮五町六反二百
六十歩　地頭青鳥兵衛入道親佛
コレ一郷ノ大社ナリ村ヨリ河ヲ隔テ東ノ山ニイ
ニス祭礼八月十五日
春日社　太田文曰八幡領春日社四町九反六十歩地頭同人
コレモ伊福村ニイニス八幡山ト連リテ春日山ト称ス延喜式ノ
日置神社郷中ニアリ何レニカイニス未考　三代實録気多
郡ノ人ニ日置部氏アルハ此郷ノ氏トセルナラン
高生郷
弘安太田文曰高生郷百七町八反大　公文矢部尼関東給
不出注文之間任建治二年状註進之新富田三町八反同　公文
沙汰
今ノ村數
地下　岩中　宵田　江原

霄田　河合道記曰豊岡ヨリ三里馬驛ノ此邊馬ハアレ共定リ名
馬借ハナシ先ハ豊岡ノ馬ヲ大方コヽニテ継ナリ惣テ
姫路ニテノ街道馬ハ多シ自由ナリ
今此辺ノ田地ヲ高生代ト云郷ノ名ヲイヒナラハシタ
ルヽ俗ニ日置郷ト合ス謬ヘ

国府

倭名類聚鈔曰国府気多郡ニアリ行程上七日下四日
昔シ王室ノ盛ナリシ時国コトニ府ヲ置ク国司ノ京ヨリ
出ルモノ皆コヽニ居テ国政ヲ行フ故ニ京ヨリ諸国ノ行程
モ府ヲ以テ定メシナリ　鎌倉業国ニ守護ヲ置キ国
司ノ権ヲ奪シカハ公家ノ政事ハ日々ニ衰ヘ国府モソ
イニ廢レヌサレト御成敗式目ニモ国街ト称セラレシカハ
流石ニ王道ノ餘波モソモヒヤラル　太田文ニ気多郷ト
アリ上古ハ皆府ニ属セシユヘ郷ノ名ナシ今府中ト称
メ十一村アリ
太田文曰気多郷百十一町三反二百九十四歩内上郷二十八
町五反二百八十歩　地頭治田小太郎入道願西下
郷七拾三町七反二百九十六歩　地頭同人
今ノ村數
山本　松岡　土居　手邊　國分市場
野々庄　池ノ上　芝　上石　竹貫

法華寺　聖武天皇天平十三年諸国ニ詔シテ國分寺
ヲ立シム僧寺ハ上ニ記ス尼寺ハ法華滅罪之寺ト名
付ク然シ和漢合運ナトニ天平十一年国分尼寺立ト
云又勝宝五年ニ法華寺立ト記セリコレ續日本記ノ本
文ヲ詳ニ考ヘサル上ヘ法華寺即尼寺ナルヿシレラス
余サキニ国府ノ地ニ遊テ遂ニ国分寺ニ至ル山本村久
水田ノ中ニ大ナル礎アリ農民語テ曰コレ法華寺ノ旧跡
ニ深ク耕セハ地中ヨリ杉ノ根イツ數町ノ内皆古ノ園林ナ
ラントス村ノ中法華寺ト云禅刹アリコレ其名ヲ傳ヘカ
為ニ再興セシナリ

気多川　金葉和歌集連歌部曰　源頼光ヵ但馬守
ニテノホリケル時館ノ三ヘニ氣多川トイフ川アリカニヨリ舟
ノ下リケルヲ聞アフル侍シテトハセケレハタヾノト申ス物カリテ
一カルナリトイフヲ聞テロスサヒニイヒケル

源頼光朝臣

タニテカル舟ノスクルナリケリ
コレヲ連歌ニキヽナシテ

相模母頼光妻

アサヿタキカラロノ音ノキコユルハ
順徳院ノ八雲抄ニ気多川英カル舟連歌ニアリト記サセ
玉ヒシモコノ事ヽコノ連歌ハ頼光當国ノ任ニテ下リ国府
ニ合タヒテノロスサヒナリ故ノ詞書ニ館トアリ然ルヲ

土人ノ説ニ上ノ郷ノ頼光寺ノ頼光ノ古城ナリトヽ何ノ深
ク考ヘサルヤ上古ノ國守ハ定リテ国府ニシルヽ前ニ論ス
ルカ如ク国守ノ其國ニテ私宅ヲ作ルヽヲ禁セラル、事
類聚三代格ニ見ユ之ヲ古ノ國守ハ在任ワツカ四年ノ
其間何ノ為ニテカ城ヲ築シスヘテ城ハ亂賊ヲ防ク
備ナリ故ニ職原抄ニタヽ秋田城ノスコレ東夷ノ為ニ
設ケナリ其餘ハ邊要ノ国トイヘ防人ヲ置テコシワ
トハ其外別ニ居城トヽモノナシ元弘建武ノ間ヨリ海内大ニ
乱レ英雄互ニ興テ弱ヲセメ小ノムラニ於テ諸国ニ城
ヲ築テ各要害ノ地ヲ守ル今ノ古城ハミナコノ比ヨリ始マレ
リ上ノ郷城ハ山名ノ家臣赤木丹後トヽモノ居タリシト

イヒ傳フサモアリヌヘキヿ)世俗ハ古ヲ考ヘス頼光此国ノ
守タリシトイヘルソレニ附會シテ国府市場ノ古墓ヲ又
満仲ノ廟ト称シ甚シキハ満仲ヲ太多郷ノ産ナリト
云フコノ類一々弁シカタシ

軍團　續日本紀曰桓武天皇延暦三年十二月乙酉但馬国
気多團毅外従六位上川人部廣井私物ヲ進テ公用
ニス外従五位下ヲ授ク
今ノ按スルニ古ハ諸国ニ軍團トヽモノアリテ人衆五百人ヨ
リ千人ニテノ備ヲナシテ常ニハ京ヘ上リテ皇城ヲ宿
衛スコレヲ衛士トヽ又隠防ノ所太宰府鎮守府ナ
トヘ行テ戍トナルコレヲ防人トヽ若軍事アレハ大將

軍ニ從テ戰場ニ向フ千人ノ頭ヲ大毅トヨツレニ少毅
二人アリテ副領スル以下八人數ニヨリテ品カハレリこナ
民ノ中ヨリ林カアルモノヲ擇テ武藝ヲ教ヘ用ユルナ
リ古武家　云モノナキ世ニハ何国モカクアリシナリ此
国ニモ朝来ノ團ハ前ニ出ス此團ハ其地詳ナラストイヘ
ヒ国府ノ辺キホトリナルヘシ故ニコヽニ記ス又續日本後
紀ニ仁明天皇七年五月丙子朔丁丑氣多郡兵庫
ヘ鼓自鳴聲行鼓ノ如シトアルモコノ武器ヲ藏メシ
クラヽし此外国学トテ学校アリテ博士其学生ヲ教授
スル国ニハ學生四十人アリ毎年春秋二仲之月上ノ丁ノ日
釋尊ノ礼ナリテ先聖ヲ祭ル應仁大亂ヨリ国学タヘス

挾沼郷

太田文曰挾沼郷三十四丁三反大　公文八木九郎左衛門尉高貫
今ハ佐野トカク弘安比八代谷ヲ分テ別ニ一庄トス
太田文曰歡喜光院領八代庄五拾三町八反　院ノ御領
又河會寺ト称ス　給主但馬前司入道　地頭小河
左衛門六郎宗祐　公文八代右近入道善阿御家人
八代郷十九町二反二百三歩公文八木三郎左衛門
今ノ村數
佐野　上石　竹貫
右佐野庄ト云
藤井　奈佐路　谷　八代中村　指(イツ)瓜　奥八代

河江　椒（ハジカミ）　三原

右八代答トヽ

雷神社　類聚国史曰清和天皇貞観十年十二月廿七日丙戌
但馬国従五位下雷神ニ従五位上ヲ授ク
延喜式ヲ考レハ雷神社ハ名神大社ナリ三代実録ニ此僧
官ノ事ヲ載テ雷椒ノ神ト記セハ誤テ擽椒神社ト渾
シタルヽ今佐野天神ト称スルコレナリトイフ別雷ノ
神ナレヽ国神ナラスハミナ天神ト称スルナリ俗ニ菅家ノ
御事ナリトイフハ雷トナリ玉ヒシト云元亨釈書
ノ虚説ニヨリテ謬ルナリ若某言ノ是ナラハ
類聚国史ハ菅家ノ御作ナリイカテ御身ノ後

ニ雷トナリ玉フ事ヲカ子テ記シヲキ玉ハンヤ

竹貫　延喜式ニ但馬貫トカケリ

水生　河合道記曰茶屋テリ少シ上キテ地蔵堂アリ右ニ
因幡ヘノ口カヽレ道アリ
コレハ上石ノ枝村ナリ後山ニ古城アリ山名ノ臣西村丹
後ト云モノ居タリシトナン永録二年八月廿四日明和
光秀カ家臣モコレヲ攻ム城中ヨク防キ戦テ降ラス
天正八年大閤一征シ玉フテ城陥ル右二度ノ合戦
異説タヽキ立ヘ詳カニ記サス

擽椒神社　類聚国史曰清和天皇貞観十年十二月廿七
日丙戌但馬国従五位擽椒神ニ従五位上ヲ授ク

延喜式ノ考レハ櫛椒神社ハ名神大社ニ三代実録ノアヤ
ニリ前ニ所ス今椒村ニイニスハ八幡宮ト称ス
太田文ニハ幡領椒別宮八町三反　下司石禾九郎
能實　御家人
大岡　三代実録ニ清和天皇貞観十年閏十二月廿
一日庚戌但馬国正六位上大岡神ニ従五位下ノ授ノ
大岡ハ山ノ名ナリ此神ハ式内ニテ何レニカ當ル未考
今ハ白山権現ト云テ當山ノ鎮守トス又薬師アリ寺ノ
本尊ナリ此山ハ孝謙天皇ノ天平寶字元年賢者
仙人開基セリトイヒ傳フ俗説ニハ白河院瘡ノワツ
ラハセ玉ヒシニ此薬師ノ霊験アルヿヲ敷聞アリテ
一七日参籠セサセ玉ヒシカドイヘザリケレハ還御
アラントテ道ニテ
南無薬師諸病悪除ノ願タテヽ身ヨリ佛ノ名コソ惜ケレ
カヲ宣ヒケレハ薬師ノ御返歌
村雨ハタヽ一時ノ物ノカシコカミノカサソコニスギヌケ
コノ佛語ヲ聞セ玉ヒシカハ御身ノ瘡タチ一チ痂ヲチテ
イヘニキトナン今ニ此道ニ瘡ノ痂嶺トイフ所アリ
コノ縁ナリト語リ傳フレト古書ニハ未見
文明三年大須賀時基郡境ノ記曰柳気多郡城崎郡
竿ノ始リ郡ノ境一ツ佐野天神一町上ミハ天門ノ瞰舟
山カ限水ハナカレ次第ソラハ谷磨ム子ハリ八代城崎

ノ郡ノ事境ハドクカ谷ムヲハリ横飛越カ限リ嶺ハ道
祖神崔ノ三ツトリ尾切未代カタケハムヲ ワリ西ニテノ
境猪ノ爪ハホトガヂゾウ谷ハナメラシセウロク川シ分ケ
谷モムヲキリ弓弦葉カ谷モ尾切カサフメ嶺ハムヲガ
キリ山ハ尾切谷ハミヤウジガシ二本松ミゴシ水サガシ谷ハ塩
賣カセイメヤウジカラ大岡坂カキリ蛇谷ノカシラハ仏カ
岩大岡山ハ七合ナカノタハノ尾切リ大ビシロ橋ノ木原大
木ノ間ノシリハ七合四方ヒニコレラ藁師山ト申スナ
リタイラ寺ハ西ノ谷ヨシタチ一ツシフガ切リ水山ハ谷
ワリ竹野嶺ハムヲガキリコヤツキハチヤウガハナ

賀陽郷

太田文曰上賀陽庄十七町六反三百丈八歩地頭二人南方
地頭小林三郎入道　北方地頭同三郎次郎真重
下賀陽郷五十九町四十一歩地頭二人　上村地頭河越
修理亮跡　下村地頭野元孫三郎
今ノ村數
引野　土淵　賀陽　八社宮　伏　清冷寺
納屋　河合カ道　記曰是ヨリ出石領ナリ湯島ヨリ
ノ舟豊岡ニテ上ラス爰ニテアカルモアリ豊國ヨリ
八一里ナリ又湯鳴ヘ行ク人コヽニテ舟シカリ湯島ヘ
モノルヱヘ所ニ舟多シ

コレハ土淵ノ別落(エダムラ)ニテ大河ヲ隔(ヘダテ)テ西ニアリスヘテ此郷ハ城崎境ノ文明ノ郡境ニ伏ハ塩屋ノカ一ノダニハ町カ畷佐野ノ低(ヒクキ)松大門ノ畷カキリトアル此所ノ境ヘ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan